

刊夕日六月一十

# 常警每日新聞

定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓  
 廣告料 五圓以上 二角 五圓以上 一角 五圓以上 五分  
 日曜 祭日の翌日 休刊  
 発行所 常警毎日新聞社 電話 六二〇〇  
 印刷所 常警毎日印刷株式会社

## 都市計画法を

### 実施指定の理由

#### 平町より提出の申請書

當町は國道陸前濱街道に沿ひ東は四倉町に西南は頻繁の度に於て縣下第一の稱ある交通路線により綴及湯本町に通じ而して東及南には飯野、高久及鹿島等の農村を經て有数の漁場に臨める小名濱中ノ作、江名、豊間薄磯及沼ノ内等の各町村に又飯野の一部及夏井等の農村に通ずる縣道あり、西北には平窪を經て小野新町三春及郡山等の市町村に又西には好間、箕輪及永戸を經て三坂、澤渡等の山村に通ずる縣道あり、人車の交通日々或は貨物自動車に或は乗合自動車に集散する物資は五百三十五軒に達し人員は一萬四千八百二十人を算す、又附近一帯は當地方特有の埋藏礦産物たる石炭を主とする鑛業旺盛にして所謂常磐炭田を背景とする關係上特殊の地利を占む。

鐵道平驛は常磐線中風に主要の地位を占め東京、仙臺の中部に當り東京を距ること二一、六軒運行時間僅々四時間十八分而して一晝夜客車の發着回数二十一回貨物列車の發着九十回以上

上の多きに達し就中當驛上野間上下六列車ありて日歸りの利便を有し又磐越線は當驛を起點とし小野新町三春を經郡山に於て東北本線に接続し更に若松其他の要驛を經て新潟に達し北陸線に接続す、實に三大縦貫幹線の聯絡は勿論本州を横斷して裏日本と太平洋とを結ぶ重要地點に在り將來に於て小名濱築港完成し將又平小名濱間の鐵道敷設實現の曉に於ては益々交通運輸の利便を加へて其の股脈を極むるに至るべきは疑を容れざる所とす、而して最近三ヶ年間に於ける重要貨物の

乗降人員は通じて  
 昭和五年度 二〇、四七、〇七二人 (一日平均五、六〇二人)  
 昭和六年度 一八、七、四七二人 (一日平均五、〇〇二人)  
 昭和七年度 二〇、二、三〇三人 (一日平均四、五五一人)  
 となる、之等の表を一瞥して逐年減少の傾向にあるは一種奇異の感無きに非るも最大事由の存するものあり他なし自動車業の發達はな

水利は町營上水道の施設完成し亦潤澤なるものを有す即ち本町水道は大正六年當町東部を貫流する夏井川の支流なる好間川の上流に其の水源を求め人口三萬人に對し一人一日〇、一立米の給水を基準として設備したるものなれども爾來戸口の増加と各種工業の隆興とに從ひ需用額に増加し使用水量不足の状態に併せて將來町勢進展の狀態に對して一層水量の豊富を加ふるものあらんとし數次の擴張工事を施行し人口四萬人に對し一人一日〇、一二五立米強の設計の下に昨昭和

七年五月を以て竣功を告ぐ而して其の投下總經費實に金壹百拾參萬壹千六百七拾九圓の多きに達したり。

等一注意して退き守るに吉  
 雖も延々すれば明日が吉成  
 亥と辰己凶(四線)目下の者  
 の金談縁談に心配の起る日  
 猛進して凶を醸す事あれば  
 控目が吉東西凶(五黄)病氣  
 怪俄紛失に注意して控目が  
 吉未申丑寅凶(六白)凶日に  
 は非ずも目下の者の身の法  
 立に心配を要する日なれば  
 水火の難にも注意南北凶  
 【七赤】營業取引萬事吉なり  
 只水火の難と印形書附に注  
 意南北凶(八白)古きを捨て  
 新金の念に奔走を起すも病  
 氣怪俄に注意未申丑寅凶  
 【九紫】金談縁談望事皆進ん  
 で吉利を得る大吉東西は凶

玉屋洋品店  
 平町田町通電話六五六番

### 雑夫募集 (掃除及使歩き)

一、年齢 十五才以上、五十五才迄にして住込みの出來得る方  
 一、學歷 尋卒程度、讀み書きの出來る方  
 一、給料は委細面談

姓名 在 社

### 耳鼻咽喉科専門

氣管食道科  
 平南町 (電話一七〇番)  
 大和田醫院

如何なる御家にも  
 なくてはならぬ必需品……

## 高級 日の出磨粉

値段が安く而も極少量で何でもキレイになり、お手をアラス事なく僅かの時間で早くキレイになる衛生と緊縮とを兼備せる、眞に時代の要求品であります是非御試用の程おすゝめ致します

特約店 芳賀商店  
 平白銀町 (大音堂向)

## 輪界の王座

サビナイ自轉車  
 富士自轉車  
 國際自轉車

全廻轉部・銅鐵製・防水保油装置  
 指定販賣所  
 フタバ商會  
 平・新川町・橋際

愈々日本より  
 楠公父子  
 ボルネオの東  
 大空の闘士  
 西部開拓

お待兼の……  
 上映致す  
 聚樂館  
 ◎料金大人二〇 子供一〇  
 平町二丁目 電話六八五番

月曜是非

榮職を得て

一山を失ふ

關井嶽樂師の大伽藍は、燒け崩れて一握りの灰と化し終せた、吾人は地方の此の名刹の壊滅を惜しむの情切なるものあると共に、此の災禍の因に對して憤り禁せざるものがある。

火災の原因は其筋の調査に依つて落葉焚きに依るものと判定された、當日は今秋稀れに見る烈風が吹き捲くり、人々は火を警めて恠々たるものがあつた、此の場合の山上の焚火が如何に危険性を孕んで居たかは想像に難くないに拘らず、平然として股間を温めつゝあつた僧侶等のあつた事を思へば、彼等の圖々敷き迄に傲岸な非常識さに呆れざるを得ない。

而して一度火災となるや水利の便全くなく、山道遠しとせずに駆け登つた數多の消防手も手を拱いて祝融子の荒るゝに委ねる外はなかつた、殊に一本の消火器の用意すらあざりしと聞くに及んでは如何に彼等僧侶達の非常の場合等に於ける用意に無關心であつたかを明らかならしむるものがある。

一山鳥有に歸すと聞いて駈け付けたいま智山派管長の榮職に在る住職旭純榮師は、寺寶血達磨とかの掛抽を燒失したとて天を仰いで號泣したといふが、寺寶もとより惜しむべし、されど日もあらうに折も折明治節の佳辰に此の不仕末を演じて世を騒がした罪を如何にして償はんとするか?

御佛の加護に頼つて是に馴れ、而も日頃の心構へに用意を欠いた間隙が、今回の火難に遭遇せるを思ひば佛は自から助けざる者を助けなかつた一證左とし、管長の榮職を得、然も一山を失つた旭純榮師を、見て世の僧侶たるもの又心中忸怩たるものがあるであらう

二年連勝の 遞友軍破る

三丁目目が優勝

昨日の軟式野球大會

既報平町第三回軟式野球大會は昨日午前八時より警中平商、第一各球場に於いて石坂、熊、佐藤、水竹の諸氏球審の下に舉行絶好の野球日和に選手達は何れも良きプレーを見せ接戦を連ねて一般觀衆を熱狂せしめたが戦績は左の如く遂に二年連勝の遞友軍惜しくも敗れ三丁目軍が優勝し榮ある優勝旗を獲得した

- △第一回戦
  - 土 木 9 — 5 鐵道
  - 營林省 10 — 4 青年學
  - 三丁目 10 — 0 役場
  - 遞友 17 — 2 明星
  - 發電所 5 — 2 古鍛冶
- △第二回戦
  - 土 木 7 — 6 營林署
  - 遞友 10 — 1 發電所
  - 三丁目 3A — 2 土木
- △決 勝
  - 三 2 — 土 木

古川改修の

實現を速進

既報平町では去る四日の町會席上建議案となつた古川改修工事實現促進の爲め今回根本品藏、馬目武之助、馬目雅治、吉田寅之輔、酒井清の五町議を促進委員に決定改修の氣運を一層醸成すべき促進運動を起す事になつた

神宮出場

平商が慰勞

平商では本日午後一時より同校講堂に於いて過般の明治神宮庭球大會に出場した監督室原教諭及び安島、木田兩選手を招き表彰を兼ねた慰勞會を催したが終つて

平町有地特賣決定

湯殿山下と火の見の下を

七日は磐女の視察を終へて双中に向ふと

平町から寄附 平町にては平土木監督所用サイドカー購入費として百五十圓を寄附する由

平町人事

平町前 鐵道へ寄附 舗裝計畫の爲めに 平驛前に元井戸のあつた場處廿七坪は町有地となつて居たが今回鐵道省が驛前を舗裝する計があるもので此の町有地を二千七百圓と見積り鐵道省に寄附する事となつた

町有地を

鐵道へ寄附

平驛前に元井戸のあつた場處廿七坪は町有地となつて居たが今回鐵道省が驛前を舗裝する計があるもので此の町有地を二千七百圓と見積り鐵道省に寄附する事となつた

兒童展の入賞

四日より本縣女子師範學校に於いて開催された第二回縣下兒童展覽會に出品した郡内の團體入賞は平第二小學校及び勿來小學校である

視學委員來郡

既報 文務省視學委員原房幸氏は今六日午前十一時一分着で平町に到着中を視察し明

女路子

△古鍛冶一七田口健氏六男 勝敏

△彌宜町一三松田龜藏氏二男 鐵夫

△大工町二當時東京市品川壘大崎本町三ノ六四三 佐々木盛男氏長女昭子

△新川町六管野友治氏長女 三三

回 婚

△北目町八田中芳代三六下 小川村字下平吉岡ミツヨ

△彌宜町一三松田龜藏氏三 八宮城縣遠田郡浦谷町字 滋谷區羽澤町八七莊水萬 氏四六播穂小路二五菊地 ナツ二四

回 死

△大町二二當時品川大崎本 町三丁目佐々木昭子一ツ

△大工町尼野ハツ三三

りん病 永らく悩む人の福音

この湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

全國知名新聞「こんなヨイクスリを未だ知らな

雑誌「推獎」の方がありませんか

右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし

慢性淋病、こしけ、濁病の病みは不思議に止り連服

するも絶対胃腸傷害なき各葉であります

尚ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は

殘藥引換に全部異議なく返金します

性、悪性の人は七日以上服差して下さい

美本淋病治療書無代進呈、此の新聞各記入申込者に

付前金申込者には送料無料、新品送藥す

代金引換廿三錢手数料金納の事

藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓

慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約 平町古鍛冶町一〇

手販賣 阿康藥舖

縣社ノ下(電話四四番)

りん病 永らく悩む人の福音

この湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

全國知名新聞「こんなヨイクスリを未だ知らな

雑誌「推獎」の方がありませんか

右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし

慢性淋病、こしけ、濁病の病みは不思議に止り連服

するも絶対胃腸傷害なき各葉であります

尚ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は

殘藥引換に全部異議なく返金します

性、悪性の人は七日以上服差して下さい

美本淋病治療書無代進呈、此の新聞各記入申込者に

付前金申込者には送料無料、新品送藥す

代金引換廿三錢手数料金納の事

藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓

慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約 平町古鍛冶町一〇

手販賣 阿康藥舖

縣社ノ下(電話四四番)

# 愈よ大平市 建設に着手

## 都市計画法申請 町會で満場一致

平町に於ける市制實現の前提として都市計画法實施の計劃あるは既記の如くであるが四日の町會に於いて實施指定の申請を本縣知事に提出する事となり満場一致を以つて本紙一面處載の申請書を可決し愈よ大平市建設の緒に着く事となつた

# 稲束を...

## 背負ひ踏切で

### 農婦轢殺さる

神谷村大字上神谷岸農部ツカ(三)は昨五日午前六時頃稲束を背負つて同村字向鎌田地内常磐線踏切を横切らんとし、進み來つた上り貨物急行八五二列車に轢かれて即死した

渡邊産業慰安 渡邊村産業組合では十日午後一時より小學校に役員會を開き終つて組合員の慰安會を催すと

# 遊興費の代りに

## 贓品を提供して

### 早速お縄頂戴

双葉郡富岡町字夜の森生れ當時住所不定立職伊藤正二(二)は去る四日午後十一時頃湯本町字笠井志賀ツネ方の不在中に忍入り女中小林コウ所有のクローム腕時計時價十二圓餘の品を窃取逃走したが昨五日夜九時頃同町字三函飲食店上遠野武行方に登樓五圓餘の遊興しその代として前記腕時計を

# 柔道昇段

## 審査の結果

既報去月十七日警中道場に於いて執行された警城柔道有段者會第十回審査會の結果は此程左の如く決定されたが昇段者は受審者五十名

の中二段が九名、初段が二十六名である

- (二段)警中阿部文平 同遠藤文也 同山田正夫 同校卒草野一郎 双中卒叶三郎 相中紺野卓 同校卒沼崎友茂 同松永龜壽 麟武館推根保美
- (初段)警中白井晃 同武藤兼一 同小西信正 同林武義 平商高木吉郎 同佐藤慶四郎 同酒井時寬 警中卒阿部兼千代 双中鈴木芳雄 同高木智治 同鈴木學 同松本六郎 同佐藤重成 同松本行正 同加藤依記 同濱田卓 同校卒飛田信雄 相中伊達勝 同高野五郎

# 人骨を盗む

## 奇怪な老爺

### 申立てが符合せず 各處に賣捌いたか

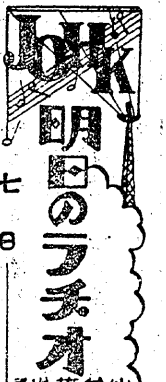
#### 内郷村のグロ事件發覺

今朝平署では内郷方面より七八十才の老人を引致し川島司法主任が事件を厳秘に附して取調中であるが右は石城郡小名濱町生れ目下内郷村高坂字三本杉二九居住無職鹽元助(七)と稱し去る四日同村真光院の納骨堂より某(特に名を秘す)の骨壺一基約五合を窃取した事件によるもので本人の申立に依れば小名濱字竹町に居住する實弟留五郎の妻ハナ(四)が三年前より神經痛に冒り人骨が此の妙薬と聞いて

# 田島町長に

## 櫻村氏受諾

元警察署長で目下平町役場に勤務中の櫻村慶氏は豫てより南會津郡田島町長の候補者と目されて居たが去る四日同町黒川、細井兩町議の交渉によつて町長就任を



今晩の部  
後六、〇〇(子供の時間) 郷土の傳説「田村磨の生ひ立ち」藤原勉  
後六、二五 英語講座(三)の五)源馬治郎  
後七、三〇 産業ミュージック 後八、〇〇 吹奏樂 伊藤樂長送別贈呈曲行進曲外

陸軍戸山學校軍樂隊指揮陸軍一等樂長伊藤隆一  
後八、三〇 狂言「不見不聞」  
後八、五〇 落語「おかめ團子」三遊亭圓遊  
後九、三〇 時報 ユニクス 氣象通報 番組豫告

# 競賣減少

## 景氣好轉か

平區裁判所に於ける去る一月以降去月末迄の競賣受理件数は二百十一件であるが景氣好轉の影響か昨年の同期に比し三十一件の減少を示したと

# 映畫を

## 見たさに

平町南町生れ當時湯本村字三函二二一理髮業廣七長男西牧一己(二)假名は去る四日午後一時頃同字二三番地當時時計商丹野一枝方に忍込み奥座敷の箆筒の中から現金十二圓を窃取した事發覺平署に檢査され目下取調中であるが同人は本年七月三函地内前田某方より七圓を窃取して以來同町内に於いて數件の窃盜を働いては活動寫真に與じて居たのであると

# 訓盲院が

## 同窓會開催

平町警城訓盲院では来る廿三日午前十時より同校講堂に同窓會を開き餘興として在校生及び卒業生の音樂演奏會を行ふと

# 勿來燒く

## 製材工場全燒 損害は一萬圓

五日午前一時半頃勿來町字寺下金成大五郎經營製材工場から發火同工場及び貯炭場を全燒し三時鎮火したが損害は一萬圓にて原因目下

# 裁判所たより

△山田村大字井上字法田吉村炭礦ガソリン機關庫運轉手遠原彌太郎(三)は去る八月十日午後零時五十分頃係員の合圖を待たず發走したため植田縣道路切附近に於いて列車と正面衝突し便乗者吉村彪三外三名に夫々三〇乃至三週間を要する打撲傷を與へ業務上過失窃として罰金四十圓

# 平商研究例會

平商業學校商工研究會の例會は明七日午後七時より町役場議事堂に於いて開くと

△宮城縣刈田郡越河村大字五賀字南生五九自動車運轉助手熊谷岩治(三)は去月十六日平地内に於いて無免許で自動車運轉し自動車取締令違反として罰金二十圓に本日平區裁判所に於いて略式命令を以つて處分された





【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演  
山本英春 畫

第八十二回

血に飢ゆる村正

萬字屋の張場では番頭の  
金兵衛が煙草を吸んで居る  
所へ

源「金兵衛さん今日は」  
金「ヤッお揃ひでお客様か  
ね」

源「お客さまちやアござい  
ません、一寸申上げて置き  
たい事があつて参りました  
此の家にやア大盗賊を抱へ  
て置きなさいませぬえ」

紋「物騒な事でございます  
蟲も殺さねえやうな面をし  
てさうでございます、かう  
でございますと廓言葉を使  
つて夫で腹の太い事は實に  
鬼神のお松も跣足だね」

金「黙つて聞いてりやアお  
前方はとんだ事を云ふ男だ  
小格子や三ツ店たあ違ふせ  
大籬の萬字屋で盗賊が居る  
の騙りが居るとのは、何か  
證據があつて云ふのか、  
なんと云ふ花魁が盗賊をし  
たのだ」

源「お家のお職で、入山形  
に二ツ星、八ッ橋といふ花  
魁が盗賊をしたのでござい  
ます」

と大きな聲で云ふたのが  
奥に茶を呑んで居た萬字  
屋の亭主の耳に入り、聞捨  
にもなりませんゆえに張場

へ出て参りまして  
亭「是は源久に紋吉かお前  
方は何でそんな事をいつて  
来たんだ」

源「旦那御油断は出来ませ  
んぜ、事によると火でも放  
けるかも知れませぬ、八  
ッ橋が盗賊をしたと云ふ譯

は此の證據を見て下さりや  
ア分ります」  
と例の證文を出して萬字  
屋の亭主に見せました、見  
れば全く三百兩の證文に違  
ひない  
紋「驚きましたらう、手切  
れの金を取つて置いてる

お客を化物呼ばり、此證文  
に書いてある萬屋の夫婦や  
幫間まで一緒に成つて次郎  
左衛門と云ふ人に悪口をし  
たさうだ、先が大盡で身の  
ほどを知つてゐるから何に  
も云はず歸へんがなすつたが  
私共はそんな事を聞いて打  
捨て置けないから一寸御忠  
告を致します、廓で指折の  
萬字屋の家にそんな盗賊を  
する花魁があつたら暖簾に  
拘はらうと思ひます、嘘だ  
と思ふなら八ッ橋や新造の  
船橋でも呼んで御聞きなさ  
りやア直ぐに分る、私共は  
まだ是から五六軒廻ります  
から御暇を致します」

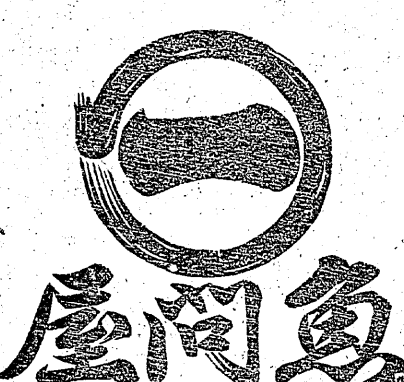


と二人の者は萬字屋を飛  
び出しました、跡へ残つた  
亭主は  
亭「金兵衛様へ八ッ橋と番  
頭新造を呼びなせえ、當人  
に遇つて聞いて見やう、眞  
逆あんな事はあるまいと思  
ふ」

金「イエー證文へ連印でござ  
いますからあるかも知れ  
ませぬよ」  
亭「那れが眞正ぢやア萬字  
屋の暖簾に拘る、早く呼び  
なせえ」  
といふので直ぐに八ッ橋  
へ沙汰を致しました、八ッ  
橋は船橋、橋の戸を連れて  
内所へ参ります  
亭「花魁外ぢやアねえが今  
源久と紋吉が来てかう、  
いふ事を云つた上證文を持  
つて来たが、そんな覺があ  
んなさるか、隠すと爲にな  
らないよ」  
八「ハイ、そんな事があり  
んした」  
亭「ナニありんした……あ  
りんしたぢやア大變だ、橋  
の戸や船橋が付いて居て何  
でそんな事をされたのだ、  
三百兩と云へば大金、その  
大金を受取つた跡で佐野の  
大盡を化物呼ばりをするな  
ど、は法外の事だ、酒の座  
敷で出来た事だけなら酔つ  
ての上でも云へやうが證  
文があつて見たら一言もな  
いせ、アノ勢ひで源久が會  
所へでも持出されると此の  
三右衛門まで迷惑をするぢ  
やアないか、番頭新造も付  
いて居て何うしたものだ」  
金「實に花魁此の二月三月  
は佐野の大盡で息をついて  
るぢやアございませぬか、  
榮さんと云ふ人があるんで  
馴染のお客は落着てへ住み  
替へでもするやうな所へ萬  
屋から来た大盡の庇陰で花  
魁も大きに恥もかゝずに居  
るのに餘り夫ぢやア酷いと  
いふものだ」

三「金兵衛やどうしたもん  
だらうどうか、源久、紋吉  
が會所へ行かねえ内に治め  
てえものだが」  
金「眞逆アノ二人も會所へ  
は持出しは致しますまい」  
三「然うでねえよ、二人と  
も餘程怒つて居た様子だか  
ら事によると擔ぎ出すかも  
知れぬえ」  
といつて居るところへ店  
の者が内所の前へ手を付き  
若「へエ旦那只今會所から  
直ぐに出るやうにと云ふの  
でございます」  
三「オヤ、遂々表向きに  
しやアがつた花魁どうして  
呉れるんだえ」  
と云はれて、八ッ橋は言  
譯もなく只頭を下して居るば  
かり、所へ又會所からの催  
促でございます、據んどこ  
ろなく萬字屋の亭主三右衛  
門は澁々會所へ来て見れば  
正面に會所の四郎兵衛が苦  
り切つて居ります、傍に萬屋  
の夫婦、阿波太夫、丸善藤  
八等眞青になつて居る夫に  
引替へ源久、紋吉は勇み立  
つて出て居ります。

鹽 節 鮒 出 賣 節 鮒



魚問屋  
店理代平命生本日本最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一二電)目丁四平

中村齒科醫院  
平町鍛冶町七

阿部藥舖  
平町(松月堂向)

かまぼこ 製造  
お惣菜用  
さつま揚  
吉原揚  
平町一丁目  
電話一四一番